上部（経口・経鼻）および
下部消化管内視鏡検査説明・同意書

□　上部消化管内視鏡検査（経口・経鼻）

上部消化管とは食道・胃・十二指腸を指します。上部消化管内視鏡検査では口または鼻から内視鏡を挿入してこれらの部位を一連の検査で観察し、病気の有無などについて診断します。内視鏡検査を安全に行うために、事前に採血によるB型肝炎、C型肝炎、梅毒などの感染症チェックやその他の必要な検査を行います。検査前より食事制限を行い、検査直前に胃内の泡を消す薬を内服します。次にキシロカインという局所麻酔薬でのどや鼻の麻酔を行い、胃の運動を止める薬(抗コリン薬など)を注射して検査開始となります。検査の所用時間は通常5-15分ほどですが、病気の有無、検査内容によって変わります。より精密な検査を行うために、検査中に色素を散布したり組織を採取して顕微鏡検査に提出する場合があります。

□　下部消化管内視鏡検査

下部消化管内視鏡検査では肛門から内視鏡を挿入して、大腸(結腸と直腸)および小腸の一部を観察し病気の有無などについて診断します。内視鏡検査を安全に行うために、事前に採血によるB型肝炎、C型肝炎、梅毒などの感染症チェックやその他の必要な検査を行います。検査前より食事制限を行い、下剤を服用していただいて腸内をきれいにします。排便状態が充分でない場合には下剤や浣腸を追加することがあります。血管確保のための点滴を行い、腸の運動を止める薬(抗コリン薬など)を注射して検査開始となります。検査の所用時間は通常10-30分ほどですが、病気の有無、検査内容などによって変わります。より精密な検査を行うために、検査中に色素を散布したり、組織を採取して顕微鏡検査に提出する場合があります。途中で体の向きを変えたり、おなかを圧迫しながら内視鏡を進めますが、場合によってはレントゲンで内視鏡の位置を確認することもあります。腹腔内の癒着などにより検査中の苦痛が強い場合には、鎮静剤・鎮痛剤を使用することもあります。

＜上部および下部消化管内視鏡検査における危険性、合併症など＞

内視鏡検査は通常安全に施行されますが、ごく稀に偶発症が発生する場合があります。消化管出血や消化管損傷・穿孔などの可能性、薬剤アレルギー、下剤の服用による腸閉塞、その他予期せぬ偶発症が起こりえます。抗血栓剤を内服している場合は出血しやすい傾向があり、処置に際して薬の内服を一時的に中止する場合があります。その際には休薬に伴う血栓症発症のリスクが上がります。治療を要する合併症が発生した場合には、入院治療や緊急の処置・手術など、最善と判断される方法で対処いたします。日本消化器内視鏡学会によると、上部および下部内視鏡検査や治療に伴う偶発症の発生頻度は全国集計で約0.012%と報告されています。

＜内視鏡検査に伴う注意事項＞

- 検査予約時に、今までにかかった病気やアレルギーの有無、普段内服している薬などの情報を担当者に伝えて下さい。検査当日の常用薬の内服方法などは事前にご確認下さい。心疾患や緑内障、前立腺肥大の有無、下部内視鏡では肺気腫や慢性気管支炎などの慢性閉塞性肺疾患（COPD）の有無も伝えて下さい。心疾患や脳梗塞、血栓症などで血液を固まりづらくする薬(抗血栓剤など)を内服している場合は、事前に休薬して頂くことがあります。
- 検査時に色素を散布して観察した場合に尿や便が青くなる事がありますが、心配はいりません。
- 検査当日は車の運転や危険を伴う作業などを控えて下さい。また検査中組織を採取した場合、当日は刺激のある食事や飲酒、激しい運動や長時間入浴などは控えて下さい。
- 検査後の飲水、食事開始時間は検査終了後の指示に従って下さい。また検査後に喉の痛みやおなかの張り感、経鼻内視鏡の場合には鼻出血や鼻痛などを認めるかもしれませんが、通常数日以内に自然に改善します。稀に経鼻内視鏡検査後の鼻出血が止まらない場合、耳鼻科的な処置を必要とすることがあります。

■ 経鼻内視鏡は経口内視鏡と比べ吐き気が少なく検査が行える反面、一部の精密検査には適さないこともあり、経口内視鏡での再検査が必要になることがあります。また鼻腔が狭く鼻から内視鏡を挿入できない場合は経口内視鏡へ変更することもあります。

■ もし内視鏡検査終了後に、耐えがたい腹痛や大量の下血、黒い便などを認めた場合には当院にご連絡下さい。また何かご不明な点などがある場合にも遠慮無くご相談下さい。

□ 内視鏡検査時の鎮静剤・鎮痛剤使用に関して

内視鏡検査の際、検査中の安静のために鎮静が望ましい時や、検査に対して不安が強い方、検査中に強い苦痛を感じる方などに対して、不安や苦痛を軽減する目的で鎮静剤や鎮痛剤の静脈内投与を行う場合があります（とくに大腸内視鏡検査時）。鎮静剤・鎮痛剤投与に伴う偶発症は、健忘、吃逆、注射部位の炎症、血圧低下、徐脈、不整脈、呼吸抑制、呼吸停止、アレルギー反応、ショック状態などが報告されており、発生頻度は0.0013%と言われています。薬剤が効いている間は動脈血酸素飽和度や血圧などの定期的な測定を行いながら状態を観察しますが、場合によっては緊急処置や入院治療を必要とすることがあります。

＜鎮静剤・鎮痛剤使用時の注意事項＞

■ 鎮静剤・鎮痛剤の効果は個人差が大きく、薬剤投与後検査中に完全に眠っている場合や、眠くはなるけれど完全には眠らないで意識がある場合など、様々な状態となります。

■ 検査終了後は鎮静剤の影響で眠気が残り、足元がふらついたりたり、呼吸が浅くなったりすることがありますので、経過観察のためにしばらくは病院内で休んで頂きます。検査当日はご家族など付き添いの方と一緒に来院して下さい。

■ 検査当日、ご自身での運転(車・バイク・自転車等)や危険を伴う作業などはしないで下さい。万が一事故を起こしてしまった場合でも当院では責任を負いかねます。

■ 妊娠・授乳中の方、高齢の方、心臓・肺・肝臓・腎臓などの機能が弱い方、緑内障の方、検査後に重大な判断を要する仕事がある方などには鎮静剤の使用ができない場合があります。

■ 何かご不明な点などがありましたら遠慮無くご相談下さい。

医師署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

埼玉県ふじみ野市福岡931番地
医療法人誠壽会　上福岡総合病院
TEL 049-266-0111(代表)

同意書

私は内視鏡検査とそれに伴う処置の目的、必要性、その危険性の内容を理解しましたので、内視鏡検査を受けることに同意致します。
また検査中などに緊急の処置を行う必要がある場合には、適宜処置を受けることについても同意致します。

＿＿＿＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

(ご本人が署名できない場合など)
親族または代理人

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印　　ご本人との続柄(＿＿＿＿＿＿)

※同意書は６ヶ月間有効です。
　同意内容に変更がある場合は職員へお申し出ください。